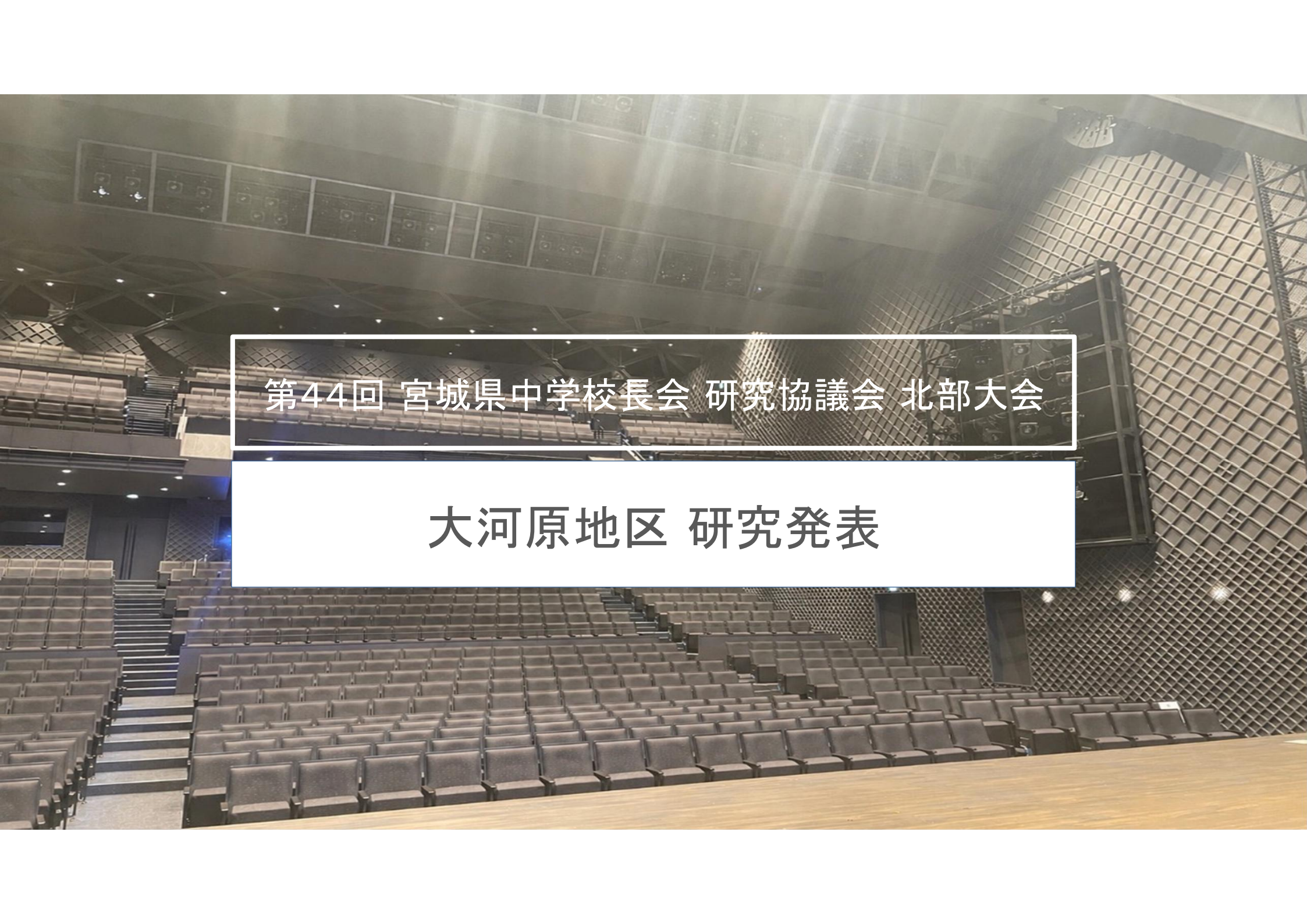


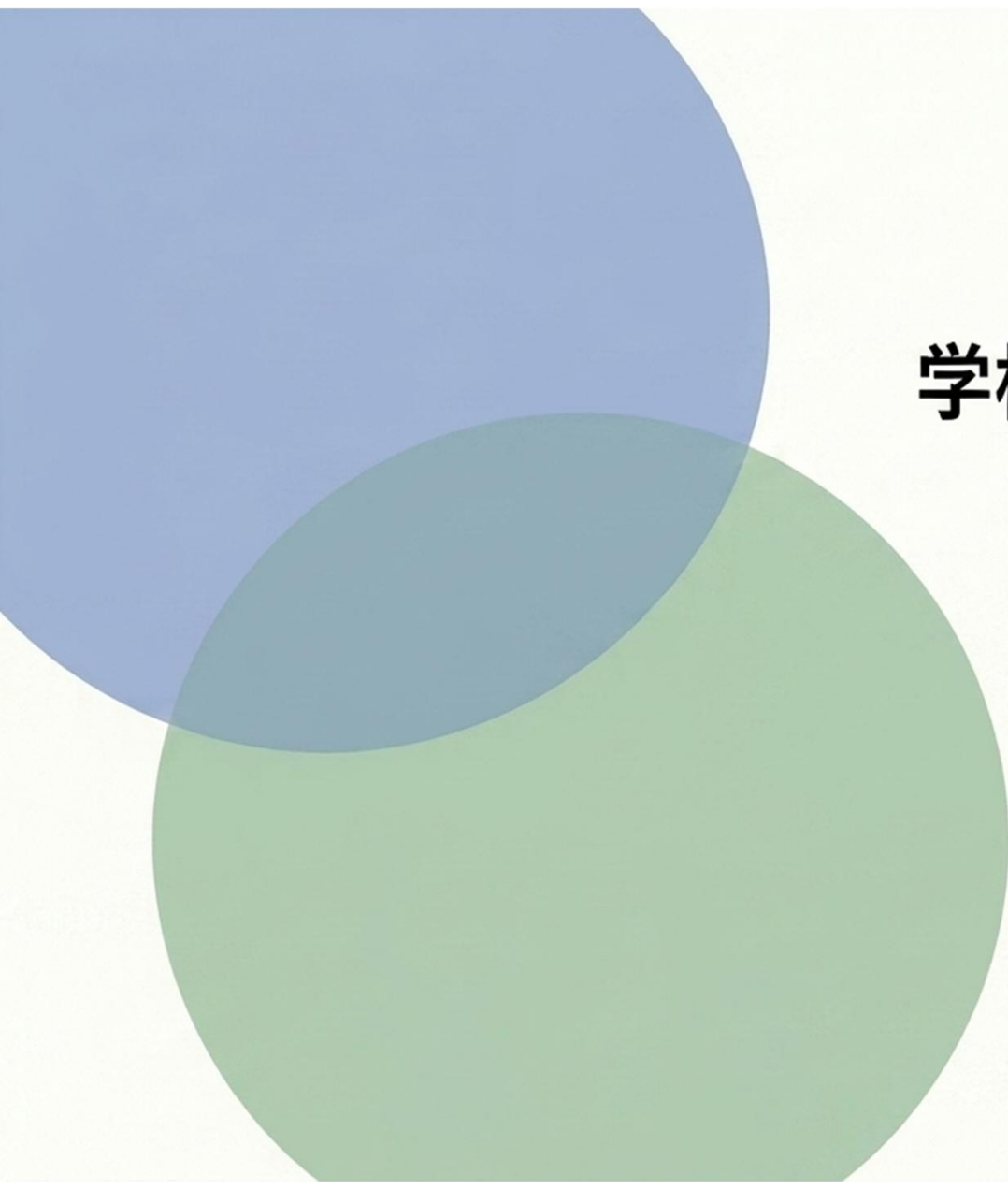
第44回 宮城県中学校長会 研究協議会 北部大会

大河原地区 研究発表



第44回 宮城県中学校長会 研究協議会 北部大会

大河原地区 研究発表

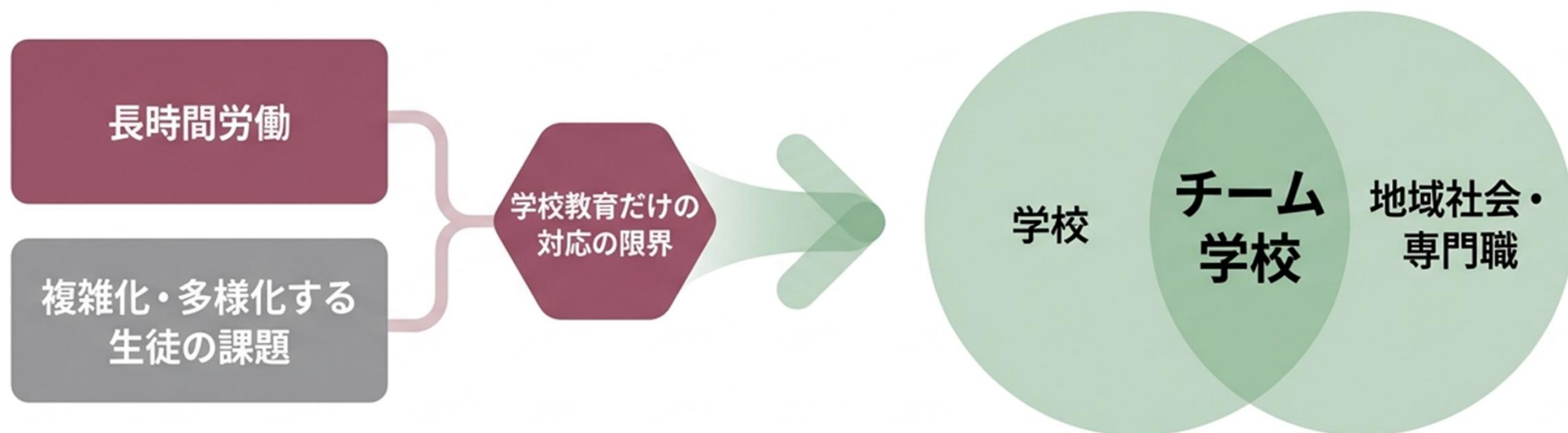


学校と地域の連携・協働による 「チームとしての学校」と 「働き方改革の実現」

これまでの取組から見えてきた現状と
今後のよりよい学校経営に向けて

七ヶ宿町立七ヶ宿中学校長
佐藤 徳之

課題の複雑化により、「学校単独」の対応は限界を迎えている



教員の負担を軽減し、子供と向き合う時間を確保するためには、
「チーム学校」と「働き方改革」の一体的推進が不可欠である。

実態把握から提言へ：3年間にわたる研究の全体像

調査対象：宮城県大河原地区中学校21校

1年次 (令和6年度)

方向性の確認・
調査内容の検討
(過去のR3～R5データ
との比較準備)

2年次 (令和7年度)

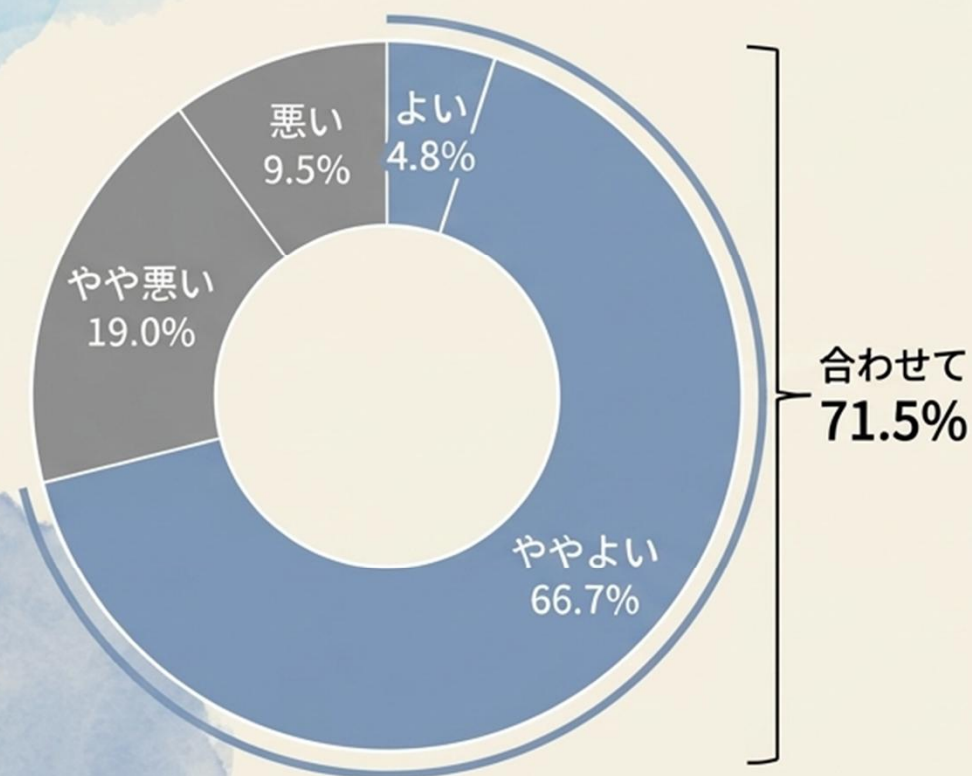
実態調査の実施・
好事例の収集・
課題の集約と共有
(本報告の焦点)

3年次 (令和8年度)

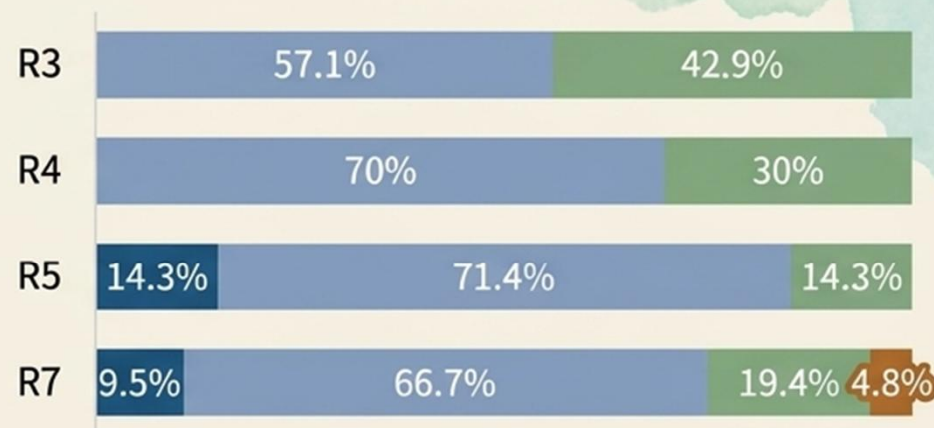
東北・宮城県大会での発表・
働き方改革推進のための
提言と方向性の提案

働き方改革への評価は約7割が肯定的だが、新たな課題への直面により評価に揺らぎが見られる

「働き方改革の推進」の状況（校長対象）



これまでの調査結果との比較

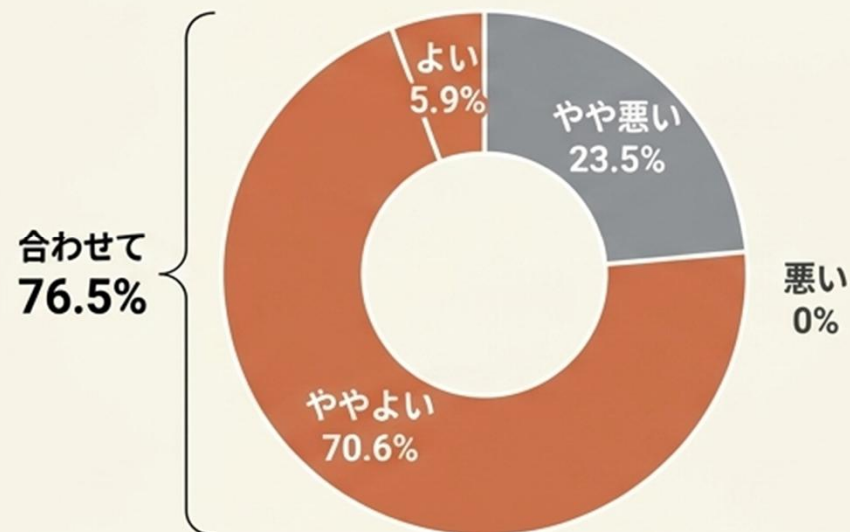


R5までに一定の成果が見えたものの、R7調査では「やや悪い」「悪い」が上昇。これは部活動の地域展開や校務DXなど「次のフェーズ」へ移行する中での難しさを実感している表れである。

「チーム学校」は機能しつつあるが、連携を支えるための「調整負担」が新たな懸念となっている



「チーム学校」としての取組状況（校長対象）



多くの学校で外部人材の活用が進んでおり、行政サポートがある場合は負担軽減に直結。しかし、学校主導で打合せや計画を担う場合、担当教員への負担感が浮き彫りになっている。

外部の機関が主導する時、 教員の時間は確実に創出される

地域の応援団・ コーディネーター

職場体験や学校行事のサポートを依頼。

効果：外部との連絡調整や準備をほぼ全て担ってもらい、大幅な時間削減に成功。

学校運営協議会・ 公民館の伴走

ゲストティーチャーの選定などを相談。

効果：学校のニーズに応じた的確な人選をサポートしてもらえる。

行政・地域おこし 協力隊の活用

探求的な学びや体験的課題解決学習の相談。

効果：スムーズな出前授業の展開が可能に。

摩擦と課題：連携そのものが「新たな業務」と化すパラドックス



立ち上げと 引き継ぎの壁

学校単独で新たな連携を企画・運営する際の初期負担が莫大。

課題: 担当者が変わると見通しが持てず、持続可能性に欠ける。



学校主導の 運営協議会

学校運営協議会が「学校主体」になってしまっている。

課題: 会の準備や活動自体が、かえって教員の業務量増加を招いている。



部活動地域展開の難航

地域環境やニーズとのマッチングが困難。

課題: 親の会などへの移行も、持続可能な体制とは言い難いのが現状。

しばたっ子応援団 (柴田町)



柴田町教育委員会 スポーツ文化振興課 学校支援活動事務局

地域学校協働活動推進委員のかなり積極的な支援

教科学習支援(指導支援)

教科学習支援(指導補助支援)

環境整備支援

地域学習支援

キャリア教育支援

安全指導支援

その他の支援

登録状況

個人	54名
任意団体	23団体 (165名)
事業所	59事業所

手続きが簡単

打合せや当日の活動に事務局が参加

ワークライフバランスの満足度は6割に達するが、現場の「実感」は真っ二つに割れている

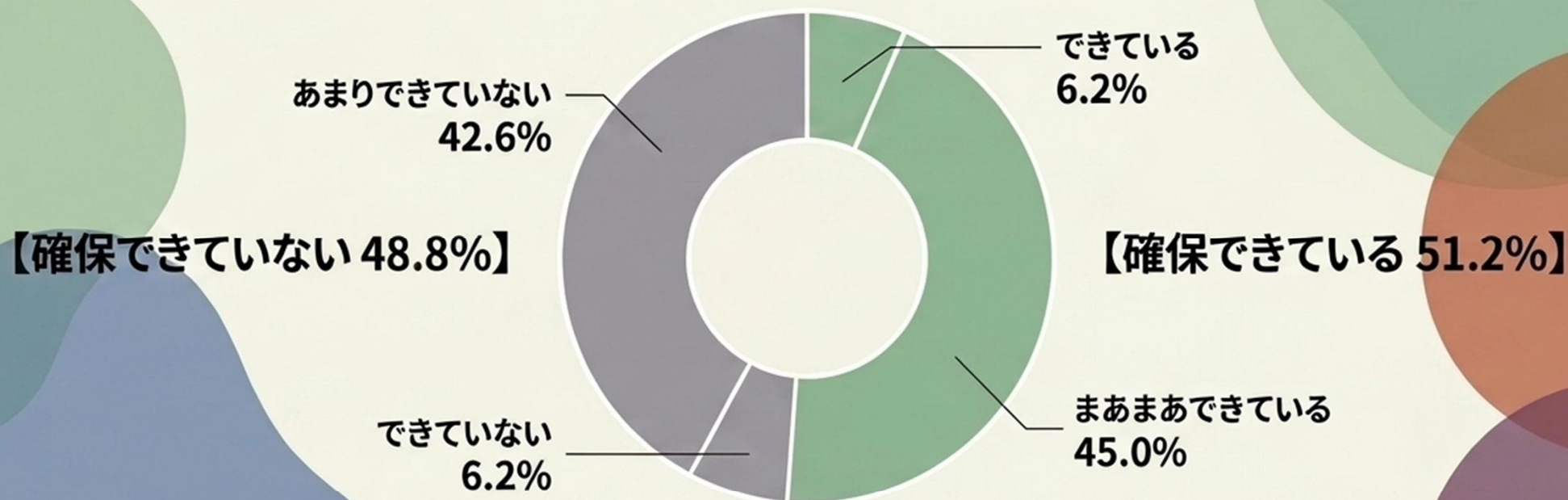
教職員のワークライフバランスの満足度



肯定派が6割を占め、働き方改革の意識は確実に浸透している。しかし、「感じている(9.3%)」と「感じていない(9.3%)」が同率であることから、年代や担当業務によって傾向の違いが生じていることがうかがえる。

授業準備や自己研鑽の「本来業務」の時間は、 まだ半数の教員しか確保できていない

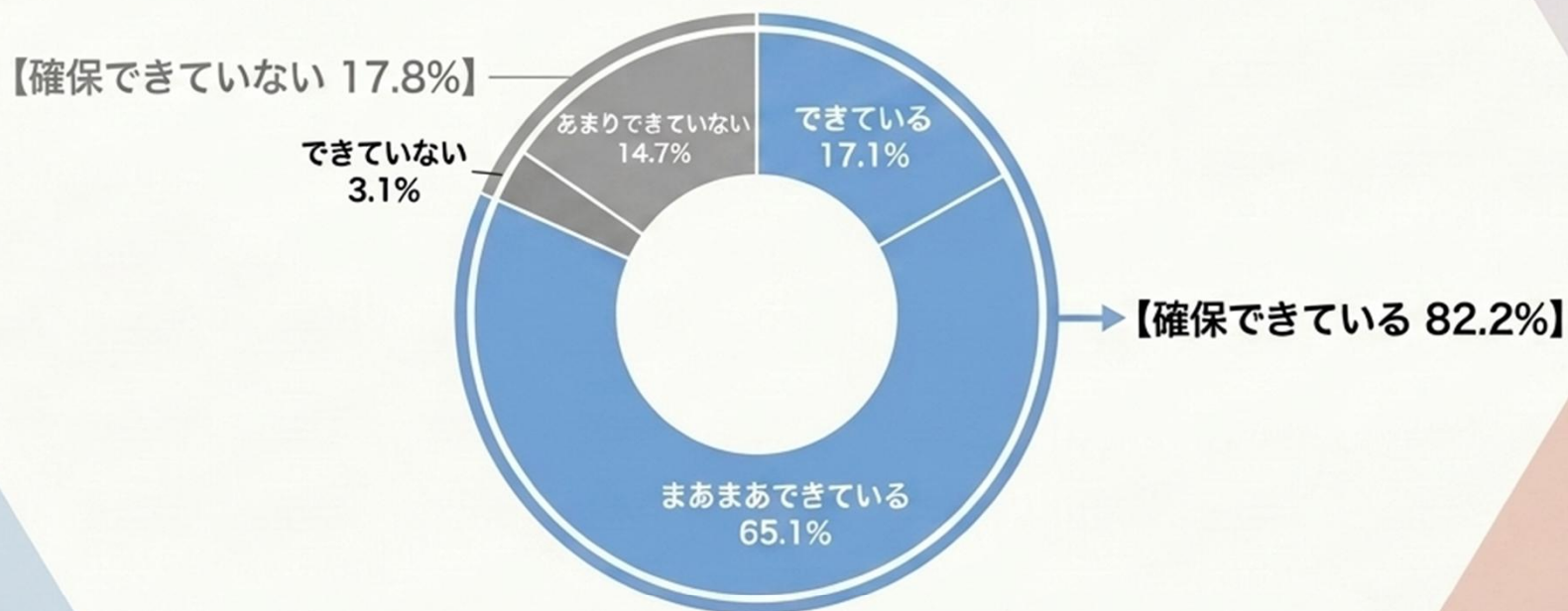
授業準備や自己研鑽の時間の確保



WLBの満足度(6割)と比較すると、実際の「授業準備・自己研鑽」の時間が確保できている割合は下回る。改革の成果が、教員としての専門性を高める時間へ十分に還元されていない現状がある。

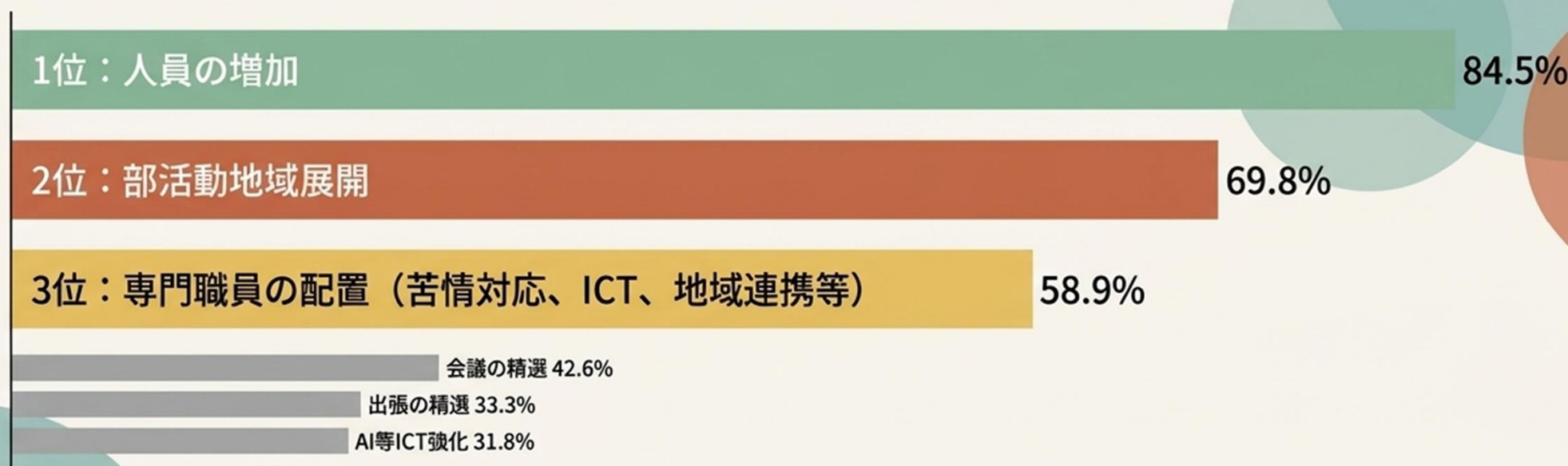
8割以上の教員が「生徒と向き合う時間」を確保している

生徒と向き合う時間の確保



授業準備の時間が不足する中でも、教員は生徒との時間を最優先に確保している。
この献身的な努力を「個人の頑張り」に依存させず、システムとして保障する環境づくりが急務である。

現場が渴望する解決策は一目瞭然。 ICTよりも「マンパワー」の拡充である



ペーパーレス化や会議削減などの「自校での効率化」は既に限界までやり尽くされている。
次の一手は、明らかに人的リソースの投入と業務の外部化である。

校務DXの推進



会議資料のペーパレス化 PDF OneNote

校務支援ソフトの活用 スズキ校務 C4th Eduo

校内連絡の電子化 Google Chat

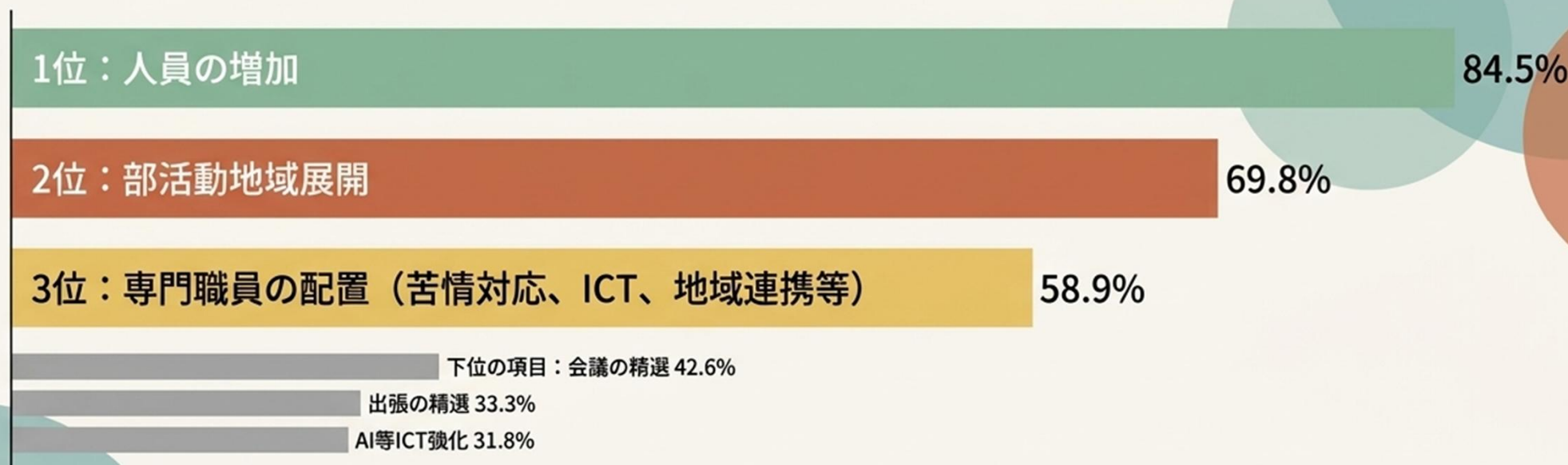
保護者向け連絡アプリの活用 マチコミ eメッセージ すぐーる

欠席連絡の電子化 Google Forms マチコミ すぐーる

自動採点システムの導入 リアテンダント

回覧文書をネットワーク上でチェック

現場が渴望する解決策は一目瞭然。 ICTよりも「マンパワー」の拡充である



ペーパーレス化や会議削減などの「自校での効率化」は既に限界までやり尽くされている。
次の一手は、明らかに人的リソースの投入と業務の外部化である。

スポネットかくだ (角田市)



地域スポーツコミッション スポーツネットかくだ（部活動チーム）

休日の部活動 地域展開

令和4年度 地域移行計画策定 アンケート調査 教職員に説明 保護者への周知

令和5年度 土日の部活動を段階的に地域クラブへ

令和6年度 令和5年度 10 部活
令和6年度 6 部活
令和7年度 8 部活

運動部

土日の部活動を地域クラブへ
※ 吹奏楽部のみ対象

令和8年度 休日の部活動完全地域展開

角田市



F 社

指導者（外部コーチ）派遣
保険手続き
学校施設の解錠・施錠
出欠の確認

持続可能な学校経営に向けた3つのアプローチ



校務DXの推進

さらなる業務効率化へ向けたICT環境の改善と、活用推進のための研修の徹底。



部活動の地域展開

地域の実情に応じた具体的なロードマップの策定と、地域住民・団体との協力体制の強化。



外部人材の仕組み化

調整や準備の負担を学校から切り離す「地域連携コーディネーター」の配置とサポート体制の確立。

変革を支える「土台」と「屋根」：対話と行政の強力なバックアップ



行政・財政支援

教育委員会や自治体との連携強化。

学校再編・統合を見据えた上での、連続性のある財政的・人的支援の確保。



意識改革と環境整備

目標設定と進捗の定期的な共有。

教職員間の合意形成を促す「対話の場」の継続的な設定。

子供の学びを支える 持続可能な学校づくり

「チーム学校」「働き方改革」の真価は、
教員が本来の専門性を発揮できる環境づくりにある。
行政の支援、地域との協働、そして情報の共有。
これらを結集し、教育の質を向上させる
「持続可能な学校経営」を実現していく。

本研究で得られた知見を各校で共有し、共に次なるステップへ。



ご清聴ありがとうございました

白石市立白石中学校

白石市立小原中学校

白石市立南中学校

角田市立北角田中学校

蔵王町立宮中学校

七ヶ宿町立七ヶ宿中学校

大河原町立金ヶ瀬中学校

村田町立村田第二中学校

柴田町立槻木中学校

川崎町立川崎中学校

丸森町立丸森中学校

白石市立福岡中学校

白石市立東中学校

角田市立角田中学校

蔵王町立円田中学校

蔵王町立遠刈田中学校

大河原町立大河原中学校

村田町立村田第一中学校

柴田町立船岡中学校

柴田町立船迫中学校

川崎町立富岡中学校